

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

The association between flooring materials and childhood asthma: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

床材による小児喘息・喘鳴への影響:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:札幌 UC

発表雑誌名: PLOS ONE

年:2024 DOI: 10.1371/journal.pone.0305957

筆頭著者名: 岩田 啓芳

所属 UC 名:北海道ユニットセンター

目的:

本研究は母親が妊娠中の自宅での床材の種類と子供の喘息発症との関係性を評価することを目的としています。

方法:

本研究は、子どもの健康と環境に関する全国調査(以下「エコチル調査」)の出生コホートデータを用いて、母親が妊娠中の自宅でフローリング、カーペット、畳、および畳の上にカーペットを敷いた状況が生後4歳までの喘息発症に与える影響を質問票を用いて評価しました。統計分析は、単変量並びに多変量ロジスティック回帰モデルを用いて潜在的な共変量を調整しながら評価しました。

結果:

本研究では合計 75,629 人の参加者を解析対象にしました。多変量回帰分析および 10 年以上経過した古い家でのサブグループ回帰分析では、それぞれフローリングと比較して畳の床材の家に生まれた子供の喘息発症オッズ比が 1.09(95%信頼区間:1.01-1.17)および 1.10(95%信頼区間:1.00-1.21)でした。

考察(研究の限界を含める):

これらの結果は、特に母親が妊娠中の自宅で 10 年以上経過した古い家における畳が、子供の喘息発症と関連している可能性があることを示唆しています。ただし、オッズ比が比較的低いため、その影響は必ずしも大きくはないと考えられます。また、10 年未満の家に住んでいる子供を対象にした解析では、有意な関係は認めておりません。なお、本研究の限界としては、畳自体の使用年数や素材やダンプネスなど喘息の原因となる要素を加味して評価したわけではないこと、子供の現在住んでいる自宅の床材と喘息との関係を解析したわけではないことが上げられます。

結論:

本研究は、母親が妊娠中に古い畳がある家の影響が子供の喘息発症と関連があることを示唆しています。